

自主保全のすすめ

～品質維持の原点回帰～

第1回 自分の設備は自分で守る！

黒田 榮之助

新型コロナウイルスがわが国経済を根底から揺るがし、特に製造業の皆さんはこれまでに経験のないご苦勞をされていることと思います。

ご承知のように、わが国はこれまで幾度となく好不況の波にさらされてきました。特に高度成長に甘んじ、設備の近代化に後れを取った製造業は構造不況の名のもと“失われた20年”として記憶に新しいところです。

ところが、今回の場合は原因がはっきりしています。過去に幾度となく人類を危機にさらした伝染病は先人の英知と努力により解決してきました。そうであれば、われわれはただ手をこまねくばかりではなく「今やること」があるはずです。

私は設備管理のコンサルタントとして、これまで多くの現場を見てきましたが、それを踏まえて「今感じること、今だからやるべきこと」などを管理の原点に立ち返り説明し、皆様の今後の活動の一助にさせていただきたいと思います。

写真1 保全は縁の下の力持ち



「私つくる人、あなた直す人」

私の育った古い時代のエピソードです。

関東地区△△市、2001年クリスマスの夜。室温0℃以下。私は某工場内で、設備改造工事のシーケンスチェックをしていました(写真1)。年末年始に客先工場を停止しての「〇〇対策工事」です。

街はジングルベルで浮かれる中、操業停止中の工場内は「空っ風」が吹き抜けて底冷えし、深夜にやっと終了する始末。コンビニ弁当を買って宿で夕食、そんな夜が年明けまで続きました。

私自身は、ずっと以前の高度成長期の頃、保全の現場でサラリーマン生活をスタートしましたが、当時現場でよく言われた言葉があります。「私つくる人、あなた直す人」。

つまり、製造現場はたとえ機械が汚れようが、油が漏れようが、時間が来たら交代。後は、保全屋が夜中にかけて設備の修理をする時代。もし、翌朝までに終わらないものなら現場から叱責の連呼。文字通り「縁の下の力持ち」です。

私の時代は、それが当たり前でした。これでは、今でいうところのモチベーションどころではありません。ですが、取扱説明書を読み、図面を理解

写真2 腐食、汚れ、漏れ

